

① 立川志の輔、大島希巳江 著  
『英語落語で世界を笑わす!』

(研究社)

落語は静かなブームになっているそうですが、本書前半では立川氏と大島氏が英語落語に挑戦している体験を対談形式で紹介しています。後半には「時そば」「権助魚」「お菊の皿」ほか、英語と日本語の対訳形式で掲載されています。英語で紹介する「落語」基本用語集もあります。笑いは万国共通です。本書にもあるように、「英語落語で世界平和」を！なお英語落語ではありませんが、本学の彭飛先生ほか編集の『笑って学んでin北京：桂小米朝落語&算数交流』(319.1022-Wara)もアジア関係図書館にあります。

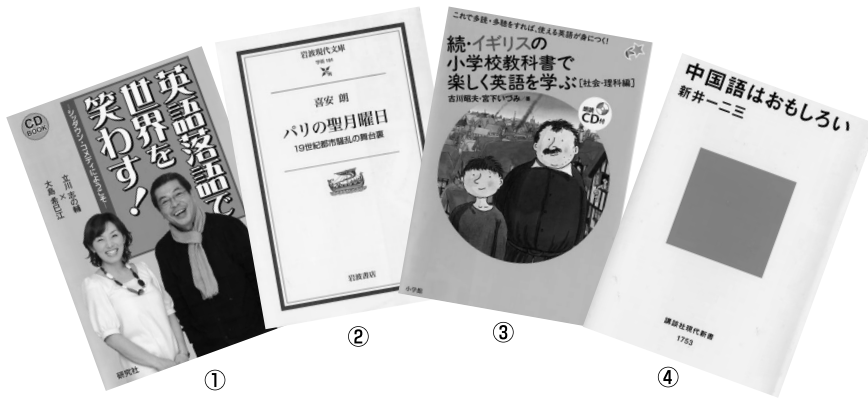
779.13-Tat (T.F.)

③ 古川昭夫、宮下いづみ 著  
『続・イギリスの小学校教科書で  
楽しく英語を学ぶ』

(小学館)

本書は、『イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ』の続編です。前作同様、イギリスの小学校で使われている教科書 Info Trail シリーズの読み物を使って、英語らしい簡潔な表現を学ぶことができます。前作はイギリス中流家庭の日常生活を描いた物語(フィクション)でしたが、今回は地理・歴史・科学をトピックにしたノンフィクションです。特にCompetent Stage(中級)の"Why do cats purr?"はネコの生態について説明されています。ネコの知識を深めながら英語の説明文のスタイルを勉強しましょう。

830-Fur (N.T.)



② 喜安 朗 著  
『パリの聖月曜日:  
19世紀都市騒乱の舞台裏』

(岩波書店)

労働者たちが日曜日のみならず月曜日までも居酒屋で飲み通す日になってしまう「聖月曜日」の習慣。「それは十九世紀パリに生きる人びとの生命力を象徴している」と著者は述べています。本書にはパリの街を取り囲む壁と門、税金、下水問題、コレラの恐怖、貧民宿、労働者たちの日常など、当時のパリの様相とそこに生きた人びとの姿が描かれています。19世紀初頭、危機的状況にあったパリに暮らした人びとのたくましい生命力を感じ取るこのできる一冊です。

235.065-Kiy (K.K.)

④ 新井一二三 著  
『中国語はおもしろい』

(講談社)

世界の中国語学習者の数は、北京オリンピックや中国の経済成長の影響などから増加しています。著者も中国語を学習してきた一人であり、中国語の美しい響きに魅了されたといえます。

本書では中国語圏の文化や中国語の歴史、中国語を学ぶ利点について、著者の経験を交えて言及しています。中国語への熱い思いが詰まった一冊です。

実践的な中国語上達法も記載されているので、これから中国語を学びたい方は一読されてはいかがでしょうか。

820.4-Ara (Y.Y.)